

第9号

発行 2018年9月1日

編集代表 西本 孝

NOI 岡山通信

日本自然保護協会
岡山県自然観察指導員連絡
会 (NOI : Nature
Observation Instructor)

ごあいさつ

代表世話役 西本 孝

猛暑の夏、皆さんいかがお過ごしでしょうか？ これまでにない夏となったのではないのでしょうか。また、7月の豪雨災害で直接、あるいは間接的に影響を受けた方には、お見舞い申し上げます。

さて、6月16日に年次総会が開催されて、2018年度の活動が始まりました。8月19日には第9回自然観察会が晴天の蒜山高原で開催され、充実した内容となりました。今後10月には中国地方5県の交流会が控えており、皆さんの協力をお願いします。これからも会員の皆様と一緒に、自然観察を通じて自然の不思議さを実感しながら充実した楽しい時間を持ちたいと思っております。

のぼり旗ができました。

世話役の橋本さん（事務局長）のデザインで作成されたのぼり旗を、8月19日の自然観察会の時に、蒜山の道の駅の駐車場で披露しました。愛称の「NOI岡山」が刷り込まれた旗は、早速、軽トラの荷台にくくられて、集合場所の目印としての初仕事をしてくれました。

橋本さんのデザインは、とても色合いがよく、青空に映えていました。今後、記念品としても活用できそうな逸品となっているようです。



中国地方5県交流会を主催します。参加希望者は早めに申し込んでください。

- 開催日：2018年10月27日（土）、28日（日）（雨天決行）
- 申込み 9月30日までに、橋本さんに。
アドレス michikusa@mist.ocn.ne.jp (橋本)
- 集合：11時 真庭市蒜山振興局駐車場
(昼食は持参してください)
- 宿泊：津黒高原荘 (0867-67-2221)
<http://www.tsuguro.jp/>
- 会費 12,000円 (1泊3食)
- 日程
1日目は真庭市の蒜山高原で自然観察と講演会
2日目は新庄村毛無山で自然観察会
- お願い
参加者には、準備のお手伝いをお願いします。
メール等で連絡しますので、時間の許す限りお手伝いください。

会費納入のお願い

当会は、会費が年度制となっています。未納の年度を明記して、会費を納入してください。総会時に支払っていただくか、欠席された方は、下記の郵便局で口座振り込みにより会費や寄付を納入してください。活動資金として活用させていただきます。

- ゆうちょ銀行 記号 15440 番号 38433761 NOI岡山 (手数料は各自でお願いします)
- 他金融機関からの振り込み 店名五四八 店番548 普通預金 3843376

2018年8月19日(日)、爽やかな風が駆け抜ける真庭市蒜山において表題の観察会が開催され、9名のメンバーが集まりました。今回は、古くから地域で行われてきた“山焼き”と非常にかかわりが深い種である「フサヒゲルリカミキリ」と「サクラソウ」の自生地を訪れました。ご存知のとおり、フサヒゲルリカミキリは環境省のRDBではIA類、岡山県版RDBでも絶滅危惧I類として



写真1. 大山が見渡せる蒜山高原の一角にある採草地で、参加者の記念撮影。

扱われており、日本で唯一の生息地は蒜山のみです。このため、平成28年には環境省は「種の保存法」で国内希少野生動植物に指定しました。一方、サクラソウは、岡山県版RDBでは絶滅危惧I類、「岡山県希少野生動植物条例指定種」の一種として指定され、保全が図られていますが、県内では減少の著しい希少種です。

フサヒゲルリカミキリの生息する現場は、地域の人々が古くから採草地として利用し、毎年山焼きなどを行い、昔ながらの管理がなされている場所で、そのなかに育つユウスゲを食草として成長し、その花茎に産卵し、幼虫はそのなかで育つようですが、詳しい生活史の解明はまだ進んでいません。一方、サクラソウも開けた草地の日当たりのよい山麓や、やや湿った沢筋などに生育していますが、両種とも山焼きなどの人為によるかかわりが無くなると存続が危ぶまれる、非常に不安定な環境下に生息している種であることに間違いありません。



写真2. 咲き残っていたユウスゲ。多くの花茎の中には、フサヒゲルリカミキリの産卵孔がみられるものもあった。

午後は蒜山にいくつかみられる湿原の一つ「蛇ヶ此湿原」を訪問する予定でしたが、7月の集中豪雨で林道が寸断されており、途中から通行不能となり断念しました。上蒜山スキー場の駐車場の木陰で昼食をとったのち、「内海谷湿原」を訪れました。この湿原は、蒜山から鳥取県へ抜ける国道を整備した際にもともとあった豊かな湿原への流路の一部をコンクリート化し、上流からの水の湿原への流入量を大きく変化させてしまい、乾燥化が急激に



写真3. 再生された内海谷湿原は、数年前の豪雨災害により土砂が流入し、手入れがされないまま遷移が進んでいました。

進行してしまいました。さらに、湿原を取り囲む斜面（集水域）にはスギ・ヒノキが植林され、生長する樹木は水分を吸い上げるため、徐々に湿原に必要な水分量が減少し、乾燥化に一層の拍車をかけることとなりました。結果的にはミヤコイバラやススキなど本来湿原にはなじまない植物の侵入が始まり、徐々にその生育範囲が広がっています。

数年前に、当時岡山県自然保護センターに在席されていた西本孝先生や、地元の山田信光先生が中心となり多くの方々の協力

により湿原回復作業が試みられ、かなり良い状態が保たれてきましたが、思わぬ豪雨災害で上流からの土砂が流入したため、ダメージを受けて手入れのないまま遷移が進行しているのはさみしい限りです。湿原には、本来、周辺が森林に囲まれた湿地に生息するヒメアカネが定着していました。

最後に、少し下った場所にある「下内海谷湿原」へ立ち寄りしましたが、トキソウやミズトンボ・キセルアザミ・イトイヌノヒゲ・モウセンゴケなど豊かな湿原に生育する指標植物がたくさん見られ、とても良好な状態が保たれていました。

また、湿原内の2か所でヤマアゼスゲを巣材として造ったカヤネズミの球状巣が確認されるなど嬉しい出会いが続きました。

豊かな自然のなかには多くの希少な動植物が生息・生育し、その多様性を実感しましたが、いずれにしても個人での保護・保全活動には限界があり、地域を中心とした多

くの人々の理解と関わりが強く求められていることを実感した一日でもありました。

ホットスポットの一つ一つを分かりやすく丁寧に噛み砕いて解説していただきました、西本孝先生にこころから感謝し、お礼申し上げます。

参加者 池田和子・勝部弘和・永富壽・西本孝・橋本智明・福元隆三・藤本亘・山田勝・山根一郎（9名）



写真4. 湿原に定着しているヒメアカネ。



写真5. 下内海谷湿原で、良好な湿原を見ながら、湿原を良好に保つために必要なことを確認し合った。



写真6. トンボがと止まったように見えることから名付けられたミズトンボ。



写真7. 湿原内には、湿原の植物を利用してつくられたカヤネズミの巣があった。